

作谷沢小中学校の統合に至る経過について

【山辺町小中学校全体の経緯】

平成21年10月 山辺町小中学校将来構想（基本計画）を下記のように策定

短期目標（概ね5年以内）

中中学校及び作谷沢中学校を山辺中学校へ編入（統合）、統合は喫緊の課題

中期目標（概ね10年以内）

鳥海小学校・作谷沢小学校について、それぞれ再編・統合（休校）を推進する
（目安として児童数10名余）

大寺小学校について、児童数50名を目安に再編・統合を検討・推進する

長期目標（概ね20年以内）

小学校の適正規模化に向け、山辺南部・山辺北部の2校体制に向けての再編・配置について検討・推進する

平成24年4月 鳥海小学校と大寺小学校が再編・統合、中中学校と山辺中学校が再編・統合

平成31年4月 大寺小学校と山辺小学校が再編・統合

【作谷沢小中学校に関する経緯】

平成30年12月20日 第1回「保護者との懇談会」（会場：作谷沢小中学校）

- 統合する財政的理由、統合する教育的理由
- 意見交換

平成31年 1月 9日 第1回「地域住民との懇談会」（会場：作谷沢公民館）

- 作谷沢地区の年代別人口
- 山辺町小中学校の再編・統合の経緯
- 統合する財政的理由
- 意見交換

平成31年 3月20日 第2回「保護者との懇談会」（会場：作谷沢小中学校）

- 山辺町小中学校将来構想（基本計画）の確認
- 鳥海小学校→大寺小学校への統合を経験した児童・保護者のアンケート結果報告
- 高大接続改革とこれからの教育
- 意見交換

令和元年 7月 1日 第3回「保護者との懇談会」（会場：作谷沢小中学校）

- スクールバスの運行計画
- 大寺小学校→山辺小学校への統合を経験した児童・保護者のアンケート結果報告
- 再編・統合スケジュール（案）の提示
- 意見交換

令和元年 7月10日 第2回「地域住民との懇談会」（会場：作谷沢公民館）

- 令和2年度から始まる新しい学習活動
- 再編・統合スケジュール（案）の提示
- 意見交換

令和元年10月 9日 第3回「地域住民との懇談会」（会場：作谷沢公民館）

- 総務課長、政策推進課長、産業課長同席して質疑応答
- 意見交換 → 統合検討委員会を設置して協議することを了承

- 令和元年11月14日 町政懇談会（会場：作谷沢公民館）
○町長より作谷沢小中学校の統合を進める旨の説明
- 令和元年12月12日 第1回「統合検討委員会」（会場：作谷沢公民館）
○メンバー
振興協議会長・副会長（畑谷区長：欠席、築沢区長、北作区長）
教育後援会長、PTA会長・副会長、公民館長、地元教育委員、
地元町議会議員（議長）、学校地域コーディネーター、教育長、教育課長
- 令和元年12月23日 第2回「統合検討委員会」（会場：作谷沢公民館）
○メンバー
振興協議会長・副会長（畑谷区長、築沢区長、北作区長）
教育後援会長、PTA会長・副会長、公民館長、地元教育委員
地元町議会議員（議長）、学校地域コーディネーター、
未就学児を持つ保護者（4世帯）、教育長、教育課長
- 令和2年1月7日 町長との話し合い（会場：山辺町役場）
○メンバー
PTA会長・副会長、町長、副町長、教育長、教育課長
- 令和2年1月9日 山辺町議会（全員協議会）開催
- 令和2年1月9日 山辺町教育委員会開催
- 令和2年1月17日 再編・統合に関する確認書の締結（教育長と作谷沢地区代表とで）

令和3年4月1日を統合とする主な理由

高大接続改革の目玉とされた大学入学共通テストでの国語や数学での記述式問題の導入見送りが決まりましたが、目指すべく日本の教育の方向性は変わりません。「知識・技能」だけでなく「思考力・判断力・表現力」の育成が今後一層重視されます。そのため、県内の高等学校でも、「探究科」が新設され、協働的な学びや思考力・判断力・表現力を重視した教育改革がすでに始まっています。

義務教育においても同様の改革が求められ、現在10年に1度の改革の時期を迎えています。新しい教科書による「主体的・対話的で深い学び」が、小学校では令和2年度から始まり、中学校では令和3年度から始まります。これまでとは授業の形態が変わり、集団の中で様々な意見や考えを出し合いながら思考力・判断力・表現力を深めていくという学びが中心になります。そして、開始から3年が経過したとき、その学びが身につけているのかが高校入試で問われることとなります。そのことを踏まえると、中学校で新たな学びがスタートする時期に合わせて統合することが妥当と考えました。

このことにより、山辺町のすべての子どもたちが、新学習指導要領に則った「主体的・対話的で深い学び」の実現が可能となります。